

## 報告事項才

鳥取県教育審議会第1回学校運営分科会の概要について

鳥取県教育審議会第1回学校運営分科会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成21年2月13日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

# 平成20年度教育審議会第1回学校運営分科会の概要について

## 小 中 学 校 課

- 1 日 時 平成21年1月27日(火)午後2時30分～4時30分
- 2 場 所 県立図書館小研修室(2階)
- 3 主席者 委員5名、事務局5名
- 4 議事及び審議等の結果

- (1) 鳥取県教育審議会条例、鳥取県教育審議会運営規定の確認
- (2) 委員長選出  
山岸委員を委員長に決定
- (3) 県立学校第三者評価について
- (4) 公立小・中学校の学校評価について
- (5) 鳥取県教育振興基本計画(案)について
- (6) 次回の予定について

### 5 協議の主な内容

#### (1) 県立学校における第三者評価について(試行実施)

##### < 意見 >

毎年、全校(31校)の評価は、委員も学校も無理。3年に1回くらいのサイクルを予定。改善に取り組むにも丁度よいのではないか。

評価項目に数字が並んでいるだけでなく、コメント主体のものでないと意味がない。それぞれの学校の特色に対応した評価をするのにも、コメントによる評価がないといけない。

何のための第三者評価なのか。評価を出すのための評価ではなく、本来子どもたちが受ける教育がきちんとなされているのかを見るためのもの。そのことを踏まえておかななくてはならない。

自己評価や学校関係者評価の状況を点検するのも第三者評価のねらいである。

学校が負担に思うようであってはいけない。評価委員はそのことや内容をよく理解していなければならない。従ってあまりたくさんのことを要求してもいけないのではないか。

##### < 課題及び今後の取組の予定・方向性 >

- ・各試行実施校では、2回目の学校訪問が終了するところ。事前に検討した評価項目に従って評価をしていただいている。事前に資料をもらって内容を把握し、教職員の聞き取りや生徒の様子を実際に見て評価。将来的には生徒への聞き取りも実施の予定。
- ・学校訪問は1日では無理なので、2日程度への変更を検討する。
- ・第三者評価の結果は事務局が公表の予定。
- ・第三者評価の本実施に向けて、委員になっていただける方がどれくらいいるのかの把握や、併せて委員の研修なども検討する予定がある。

#### (2) 公立小・中学校の学校評価について

##### < 意見 >

今までも(自己評価等)実施してきたが、この度は公表を意識づけている点は大きな改革である。保護者にもまだ十分に公表されていないのが昨年までの実態。

学校の教員の周知・理解が大切。パンフレット(ガイドラインの概要)も配布されており、研修等も行ってきたので(内容は)理解されているが、やはり公表までするという点では(意識が)不十分ではないか。

学校の自己評価の公表の方法は、「保護者会」「学校便り」「ホームページ」が多いが、公民館に資料を置くなどしている学校もある。地域の方

に知っていただくための方法はこれから工夫していくことが大切。  
HPなどで公表するとしても、よく吟味してあげ方を考えるようにして  
いかなければならない。

学校のHPだけでなく、市町村がHPに域内の学校分を掲載することな  
ども考えてはどうか。

学校評価と教職員評価が連動していくことが望ましい。

市町村や県で、この学校評価の結果を教育行政や学校運営に活かすとい  
うことが大切。市町村は限られた財政の枠組みの中だが、予算の配分な  
どにも活かさないのか。

学校現場にだけ努力を求めるのではなく、市町村との両輪で、互いの努  
力によってすすめてほしい。

< 課題 >

- ・チェック項目を何にするのか、どこまで公表するのかという悩みも多い。  
公表が100%になっても内容の質的な向上は今後の課題。

(3) 鳥取県教育振興基本計画について

< 意見 >

大きなテーマ、目標に合わせての数値目標になっているのか。マッチン  
グしていないということはないか。後になって困ることのないように、  
施策はよく吟味してほしい。

公立学校の耐震化の数値目標は、小中学校は80%(H26.3)でよいのか。

安全ということを考えれば、もう少しはやく100%にできないのか。

奨学金については取り上げられているが、県立高校の授業の減免のこ  
とも、現在の社会状況を考慮すると取り上げてほしい。

検討する必要がある。確認してみる。

< 課題 >

- ・前向きの目標をあげるべきで、数値目標として何をあげていくかどうか  
検討が必要。

(4) 次回の予定

第3回評価委員会の開催、評価書の交付(2月)、改善計画書の提出(3  
月)を受けた報告及び本格実施に向けての検討。

公立小中学校の自己評価結果の公表や設置者への報告の状況について  
今後の開催日は、委員長と相談して決定する。年に2~3回程度。

【参考】

< 委員名簿 >

氏名	所属・職名等	備考
竹上 順子	株式会社インタープロス代表取締役	(欠)
高松 彰	鳥取県PTA協議会副会長	(欠)
横川貴恵子	鳥取市立若葉台小学校校長	(欠)
山岸 正明	鳥取大学名誉教授・セコム山陰(株)システムデザイン部鳥取営業所顧問	委員長
中嶋 邦彦	鳥取短期大学幼児教育保育学科教授	(欠)
由宇 忠司	鳥取ガス産業株式会社執行役員兼エネルギー-事業チ-ム	臨時委員
安藤 順一	県立米子工業高等学校校長	臨時委員
伊藤 幾子	県立鳥取東高等学校PTA副会長	臨時委員
前田 良明	元智頭急行株式会社代表取締役社長	臨時委員

< 事務局 >

白井 靖二	小中学校課長
上山 憲二	教育総務課教育企画室長
永野 智之	高等学校課指導係長
福田 浩則	小中学校課義務教育主査
若林 安徳	青少年・文教課企画員